

平成26年度明るい選挙啓発 ポスターコンクール 優秀賞作品



小田原市立富士見小学校1年
磯崎 杏



海老名市立海老名小学校2年
戸床 優希



藤沢市立鶴沼小学校4年
六宮 文有



函嶺白百合学園小学校4年
小野 晏



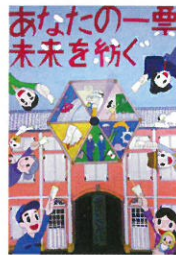
秦野市立東小学校5年
児島 佐和子



伊勢原市立伊勢原小学校5年
今松 和奏



伊勢原市立大田小学校5年
和栗 ひより



海老名市立有鹿小学校5年
高石 惇穂里



愛川町立中津小学校5年
川島 菜々海



伊勢原市立大田小学校6年
眞野 杏里



三浦市立初声中学校1年
内田 夏帆



厚木市立厚木中学校1年
高橋 直希



県立相模原中等教育学校2年
潘 晨慧



平塚市立山城中学校2年
須藤 涼香



横浜市立中和田中学校3年
高橋 亜実



厚木市立玉川中学校3年
林 歩



伊勢原市立中沢中学校3年
駒崎 海智



県立相模原中等教育学校4年
成田 葉月



県立海老名高等学校1年
中村 友里恵



川崎市立川崎総合科学高等学校2年
木村 柚子



県立弥栄高等学校2年
岡西 夏季

あらまし

「明るい選挙啓発ポスターコンクール」は、明るい選挙を推進するために、小学校・中学校・高等学校等の児童・生徒の皆さんを対象に、毎年行われています。

今年もたくさんの応募があり、しかも力作ぞろいでした。そのため選考が難しく、審査員も審査に当たり大変苦勞しました。応募された皆さん、御協力いただいた先生方に深く感謝します。

これからも、一人でも多くの皆さんが、政治や選挙に興味を持って、応募してくださることを期待しています。

応募状況

今年度は、185校から、2,352点の応募がありました。

学校	年度	22	23	24	25	26
小学校		1,713	1,911	1,562	1,645	1,500
中学校		747	1,169	931	1,140	816
高等学校		9	59	43	50	36
合計		2,469	3,139	2,536	2,835	2,352

審査結果

平成26年9月29日に行われた県の審査会において、小学生10名、中学生7名、高校生4名の計21名の方が優秀賞を受賞されたほか、小学生31名、中学生16名、高校生2名の作品が佳作となりました。

審査員

忽滑谷 章（公益財団法人神奈川産業振興センターデザイン専門相談員）

橋井 香苗（神奈川県教育局指導部高校教育企画課主幹兼指導主事）

三浦 潤子（元神奈川県明るい選挙推進協議会監事）

神奈川県選挙管理委員会委員

神奈川県選挙管理委員会書記長

審査講評

審査員代表 忽滑谷 章

何かを表現するという事は、その人だけにしかできない手仕事(アナログ)から生まれます。また、ひとつとして同じものはありません。洞窟壁画では「狩の手法」を伝え、ギリシャ・ローマでは、神は人の姿、心があるとして、理想の人体を求めました。仏教が日本に伝わり、平安で肖像画や絵巻物、鎌倉では、仏像で運慶の新たな造形美が残り、安土・桃山で狩野派の絵師や琳派による濃密な色彩の障壁画や蒔絵が残されました。利休は質素な「わび茶」で草庵の茶を、そして、町人が文化を担った江戸では、海外情報も入り、多彩な文化が発展。写楽は歌舞伎を、広重や北斎により、景勝地や自然、祭りが紹介され、各地の大名の加護で、屏風絵や漆工芸が残りました。その後、近代美術は、作家が作品に自分や依頼者の考えを込めて制作、発展。20世紀、現実を描くだけでなく、作者の内面、見えない風や空気を描くことで「抽象」が生まれ、W.カンジンスキーは絵の要素(色や形)だけが、人を感動させると「コンポジション」を発表。これらの作品は、技と工夫をこらしたアナログで制作されています。

経済では、産業革命で生産性が向上、次々と「モノ」が量産され、心地よい生活環境が提案、「モノ」は更に増産されました。しかし、地球の資源は有限です。次々とスタイルを変えるのではなく、本当の便利さと永続性、機能性のデザインを提案、生活者に意識改革を求めています。

一方、多分野でのデジタル化は人にはできない「技」を可能にし、合理的に早く処理する事が出来ます。コンピュータは同じものを繰り返し、早く創るのは得意ですが、人が指示しないかぎり、それぞれ違う個性あるものを創るのは不得意です。ソフトの操作ができるか否かではなく、優れたポスターを制作するには、テーマを分析、しっかりとした発想力と個性を発揮し、アイデアと創意工夫を凝らすことが必要です。アナログは、うまいか否かではなく、作者の考えや意欲・努力がみえます。ですから、このポスターコンクールは、小学生のお友達でも、中・高校生でも、同じステージ(土俵)で比べることができるのです。このコンクールのテーマ「明るい選挙」は選挙権のないうちから、選挙の啓発、正しい選挙のあり方と意味を考える良い機会となります。今年、文部科学大臣・総務大臣賞は、成田葉月さん(高1)が、(公財)明るい選挙推進協会会長・都道府県選挙管理委員会連合会会長賞には、小野晏さん(小4)と駒崎海智さん(中3)の2名が受賞しました。その他、優秀賞の中には花火や相撲など解りやすい素材を工夫したり、新聞紙を使ったりして、今までにない、新しいアイデアやテーマがありました。来年も素晴らしい作品を期待しています。